



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Show Rotary Cares・『ロータリーの心を』
1997～98年度・国際ロータリーテーマ／グレンW・キンロス会長

『ロータリーの原点』に立ち『新鮮な眼でクラブライフを』
1997～98年度・東京新南ロータリークラブテーマ／武下 朗会長

◎本日の例会 回卓話「人間の能力の限界を求めて」

3月27日第553回例会

目白大学「記憶法」兼任講師 友寄 英哲 氏

◎先々週報告

3月13日第551回例会

回幹事報告

5月本年度・新年度合同理事会は5月8日(金)地区協議会が開催されますので、5月15日(金)例会後に変更しました。

回職業奉仕委員会報告(伊部委員長)「アンケート」のお願い

本日皆様のボックスにアンケート用紙を入れさせて頂きました。趣旨はアンケート用紙に記載の通りでございます。よろしくご理解の上お早めのご回答をお願い致します。

回親睦活動委員会報告(高須委員長)

新しいロースターを本日ボックスにお入れしました。ABC順になっておりますが差し換えが便利に片面刷りでページ数は入れておりません。追加は実費(3650円)負担となります。

回慶事披露●お誕生日祝／T. CONSIGNY君(3月12日)、小杉修造君(3月17日)、宮川弘信君(3月19日)、山下忠治君(3月20日)、武下 朗君(3月22日・古稀祝)

●100%出席／鈴木重徳君(11年)

回出席報告●会員72名／出席53名・欠席19名、2月修正出席率86.27%

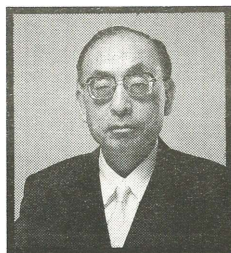
ビジター(6名敬称略・順不同)／石黒 康(東京五反田)篠木利史子(東京世田谷中央)伊尾 正(東京城西)島村明定、海老原 茂、中井盛久(以上東京南)

ニコニコBOX

3月13日/18件 47,000円
97～98年度累計 1,725,432円
多額のご寄付を有難うございます。
(順不同、敬称略)

武下 朗／誕生祝うれしくないがしかし?ティエリ・コンシニ／東京新南では初めての誕生日祝い、皆様からのあたたかいカンパいありがとうございます。鈴木重徳／何とか11年間100%出席を果たしました。渡邊 治／本日のクラブ・フォーラムの成功を祈って。山川政樹／本日のクラブフォーラムの進行役をさせて頂きます。ご協力お願いします。河原勢自／青野さんに御挨拶させて頂きます。保森先生過日の夜間例会ではごちそうになりました。遅れましたが御礼申し上げます。大日方真／幕張メッセで宮本さんのワインを味わってきましたので。田中 武／先週は受付忘れ、谷村さんご迷惑をおかけしました。宮本正祥／受付でニコニコほほえむこわい人。開発英基／マウイ島で鯨が潮を吹くのを眺めながらのゴルフも格別でした。小杉真史／青野さんに敬意を表して。吉岡琢磨／青野さんニコニコ御苦勞様です。渡部一元／青野さんに敬意を表して。谷村義雄／青野さんに敬意を表して。後藤信夫／ホームクラブ欠席が続きました。斎藤茂之／お世話になります。相澤成憲／所用のため本日中座させていただきますので…。宮武保義／所用のため本日のクラブフォーラムを中座させていただきます。

訃 報



当クラブ牧野吉郎会員は、かねて療養中のところ肝不全のため3月12日午後9時11分ご逝去されました。(享年66歳)

生前は(株)ニッコトラストの代表取締役会長を務められ、当クラブには1996年5月17日ご入会、本年度は社会奉仕委員会、親睦活動委員会等にご所属頂きました。ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げ、ご遺族に対して心から追悼の意を表します。葬儀ならびに告別式は、社葬をもって去る3月20日(金)に青山葬儀所にて執り行われました。

◎次週予告

4月3日第554回例会

回卓話予定 イニシエーション スピーチ 「真 珠」

当クラブ会員
三愛真珠(株)代表取締役専務 大山 啓人 君

回卓話「クラブの自主性とR.I.の管理について」

3月13日第551回例会

ロータリー情報委員長 田辺 賢三



田辺 賢三 君

1、シカゴRCの拡大運動

1905年シカゴRC創設後2年間、ポール・ハリスはクラブの役職につかず、裏方にあって、クラブの運営指導と発展計画に専念したが、この間にポールは、ロータリーの世界拡大の夢をいたし始めた。

1907年第三代会長に就任したポールは、クラブ会員たちに、米国の主要都市にロータリークラブを拡大してゆく構想を訴えたが、会員の殆どは、ロータリーの拡大など不合理で実現不可能なことと云って、耳をかきなかった。

しかし、ポールは大学時代の学友や、5ケ年の放浪生活中に知り合った友人達に手紙を書きまくり、各地にRCを創立する計画を訴え、助力を頼みつける。

1908年は、その後のロータリーの発展に不朽の足跡を残した2人の人物、アーサー・フレデリック・シュルドンと、チェスリー・ペリーが相次いでシカゴRCに入会した記念すべき年であったが、その年、念願の最初の子クラブがサンフランシスコに創設された。

ポールは、もう一期クラブ会長をやることにし、クラブの拡大を推進する「広報拡大委員会」(Publicity and Extension Committee)を設置してアーサー・シュルドンを委員長に任命した。シュルドンは、ポールの意を体し、例会毎に会員に対し拡大を呼びかけたが、会員達はこれを嫌い、遂に動議を出してシュルドンを拡大委員長の座から引き下ろして下った。ポールは落胆して年度半ばにして会長職を辞任し、後任会長にはハリー・ラグルスが就任した。

拡大に反対であったラグルス会長は拡大委員長の後任にチェスリー・ペリーを任命し、チェスと呼んで「シュルドンのようなことをやるな」とささやいた。しかし、チェスリー・ペリーは一日ポールと懇談した結果、ポールの拡大構想に賛同し、拡大活動を推進し始めた。1908年のサンフランシスコクラブに続き1909年には、オークランド、ロスアンゼルス、シヤトル、ニューヨーク、ボストンと新クラブが設立されて行く。

しかし、シカゴRC会員の大半は依然拡大には反対であり、又新クラブ設立のスポンサーとして、設立から承認までの手続きを引き受けることは、同クラブの負担にもなっていた。そこで、チェスリー・ペリーは、シカゴRCの拡大活動をあきらめ、別の組織を作って拡大を行うことを考え、ポール・ハリスと相談の上、連合会結成に乗り出すのである。

2、全米ロータリークラブ連合会の結成

チェスは、各クラブに呼びかけ、1910年シカゴ市に全米16クラブの代表者を集め、全米ロータリークラブ第1回大会を開催、この大会でチェスリー・ペリーが議長となり連合会結成を提案し議決された。そしてポール・ハリスが連合会会長に、チェスリー・ペリーが連合会幹事(後、事務総長)に推薦され就任した。

処が、連合会の定款の承認を求める段になって、各クラブ、殊にシカゴRCは賛否両論に分かれて紛糾した。反対意見は「連合会が各クラブの上位に立つのであれば承認できない」、「連合会で機関誌を発行すると聞くが機関誌を発行する者がロータリーを牛耳るのではないか」、「連合会はシカゴRCの自由を奪うのではないか」等であった。

結局、この大会では決まらず、延々と議論を続けた結果、

- 1) 連合会と各クラブとは対等である。
- 2) 各クラブの自立独立性を保証する。
- 3) 連合会は各クラブ共通の問題解決と、全米的な立場から高次の団結に努めると共に、RCの拡大を行う。

ということで、シカゴRCも折れて、連合会定款、規約が正式に承認された。時に1911年6月、連合結成後10ケ年経過していた。全米ロータリークラブ連合会は、1912年、ロータリークラブ国際連合会となり、更に1922年R.I.と改称され、今日に至っている。

3、ロータリークラブ国際連合会の定款を要約すると次の通り (1915)

- 第1、ロータリーの規則をつくって全クラブに示す。
- 第2、世界中の商業中心地にロータリークラブの結成を推進する。
- 第3、ロータリークラブと、その会員及び地域社会に役立つ情報を全クラブに知らせる。
- 第4、ロータリアン及びロータリー・クラブの間に友好的精神を増進する。

このように連合会定款は、今日のような管理・監督というような表現もなく、当時、各クラブと対等という立場で書か

れたためか極めて穏健なものであった。

4、現行定款の「R.I.の目的」条項について

現行定款をみると、第3条にR.I.の目的は下記のように書いてある。

- (1)全世界にわたって、ロータリーを奨励し、助長し、拡大し、そして管理すること。
- (2)R.I.の活動を調整し、全般的にこれを指導すること。

A. 前(1)項の「R.I.の管理」について

クラブは私的結社であるから、本質的には活動運営は自由である云々でも、ロータリーという連合会に加盟し、連合会の一会員としてロータリーの綱領やR.I.の定款・細則、及びロータリークラブ定款・細則を遵守するのは当然であろう。従ってR.I.加盟ロータリークラブがR.I.の諸規則から踏みはずさないように、R.I.が管理をしようというのは決して、クラブの自主性を排除するものとは云えない。全世界のR.I.加盟国158ヶ国、ロータリークラブ数28,500を越える現状ではR.I.定款・細則やロータリークラブ定款・細則を完全に守っていないクラブが少なからず存在するであろうことは、想像に難くないからである。

クラブサイドでみるなら、「クラブ奉仕」の各委員会の分野はある程度「管理」されてもよいと思う。「出席」にしても「会員増強」にしても、クラブの健全な維持発展のために必要不可欠の条件であるから、R.I.として管理の対象として考えるのは当然ではないだろうか。昨年度IMのパネルディスカッションで、あるクラブのパネリストは「会員増強はクラブの自主的な考えでやればよい。増強をやらないことも自主性だ」と云われた。私は、そのような自主性が実はクラブエゴではないだろうか。ロータリー運動の理念から云っても、クラブエゴは許されないだろう。

ロータリーの諸規則の歴史は常に諸規則の「緩和」の歴史であったし、R.I.からクラブの管理面について、干渉がましいことを云って来たという記憶はない。

ところが最近になって、地区においてクラブ管理のための新しい行政管理方式が行われようとしている。それは「地区リーダーシッププラン」と称する地区ガバナーのクラブ管理方式である。今日はこれを論ずる時間がないが、奉仕団体に必要なのは本部リーダー・地区リーダーではなく、クラブリーダーシップではないだろうか。

B. 前(2)項の「R.I.の指導」について

「R.I.の指導」とはどういうことを指導するのか。

1910年ロータリークラブ連合会が結成されたとき、連合会には一流の指導的人物が揃っていた。チェスリー・ペリーは事務総長としてロータリーの組織諸規則の制定やRCの拡大を指導すると共に、機関誌ザ・ロータリアン誌を主宰し、シュルドンは連合会の企業問題委員長として職業奉仕の理念を研究し、またガイ・ガーデンカーは連合会のロータリー理論教育委員長として、ロータリー思想の普及、教育に尽力した。

彼らの優れた業績はロータリアンの教育であり指導であった。R.I.の目的の一つとして「指導」を云うならば、その第一にかつての連合会が行ったような理念指導を期待したい。

最近行われているR.I.の指導は、そう云ったR.I.の理想、理念の指導ではなく、奉仕活動の具体的な分野、方法、手段などの提案ばかりであり、手続要覧の社会奉仕や国際奉仕の章には、クラブの手をとって教えるような細かい具体的「指導」が最近著しく増えている。

それらはR.I.が「推奨する」、「奨励する」、「提案する」というような表現であるが、R.I.はこれを以て「指導」と考えているのであろうか。

5、クラブの自主性について

クラブは、R.I.の提示するプログラムの中から選択すればよいという人もいるが、選択の自主性だけでは情けない。クラブ自身のプログラムを立案し、自主的に進んでやることが、クラブライフの生き甲斐ではないだろうか。昔のロータリーには自主性にあふれた活力があたように思う。1915年に制定されたロータリー道徳律は、アイオワ州のスウシティRCが2ケ年の歳月をかけて起草した労作であったし、1922年から1923年にかけて、全米のロータリアンを二分する大論争を産んだのもエドガー・アレンをリーダーとするヒューマンティに燃えた実践派ロータリアンと、ロータリーの本質論から理念を曲げなかった理論派ロータリアンとの、何れも真摯なロータリアンとして、自ら信ずる意見を主張した正々堂々の議論であった。

そして、その大論争を仲裁し、ロータリー分裂を防止したのがR.I.ではなく、テネシー州ナッシュビルRCが提案した議23-34であった。ロータリークラブの進路、ロータリークラブの運命は自分たちクラブ会員が自ら決めるべきものと信念に燃えていたのだ。

発表

河原 勢自

田辺さんが一貫して問題提起しているこの問題はロータリー活動の根幹にも関わるものであり、重要にしてかつ難しい課題である。

このテーマは言葉を換えて表現すれば、「元来、各ロータリークラブが基本的に持っている広汎な自主的奉仕活動(物論ロータリーの理念の枠組の中での)に対して、後発的連合体組織であるR.I.が、これを規制したりコントロールしたりする権利があるのか、もしあるとしてどこまで許されるのか」と云うことであろう。この問題が発生しているきっかけは、「職業奉仕を根幹とする個人奉仕」を重要視するが、集团的・即物的奉仕活動に力点を置くかにその淵源があるものと思われる。

職業奉仕に云う哲学的理念的要素のつよい奉仕よりも即物的な奉仕活動の方が理解され易いし、行動の実感が得やすいことは事実である。集团的奉仕を行うには全世界のロータリークラブをR.I.を頂点とする下部集金組織として機能させた方が効率が良いことは明らかであり、近年この傾向が著しく強くなっている。田辺さんはこの傾向に対し重大な警告を発しているのだと理解している。

R.I.に加盟する組織として基本的に尊重しなければならない部分と、元来各クラブが自主的に行う権利でもあり義務でもある活動部分をよく認識する必要がある。この認識の上に立って行動するのが本来のロータリークラブだとすれば、R.I.や地区の指示指導に唯唯諾諾と従うのではなく、自主的に取捨選択して方針を定めることができるし、かつしなくてはならないことだろう。クラブで自主性を発揮すると云うことは恣意的に活動することではない。意欲的な行動意識・創造性・自立性が求められるだろう。しかしもしこの要件を満たせば、ロータリー活動に一層の意義、生甲斐を感じられるのではないだろうか。

発表

渡邊 治

- (1)田辺さんが問題提起された「自主性」という言葉の本来の意味は、ロータリー組織の上部構造(R.I.および地区)の指導方針との関連において考えられるべきことであって、「他クラブとの対比で何か目新しいことを」といった発想ではない。
- (2)この意味で正しい「自主性」を確保する道は、基本的にはロータリーを正しく理解する以外にない。この点ロータリー情報委員会の果す役割が最も重要と云わざるをえない。ロータリー情報委員会の活動は闇夜を照らす燈台のごとき役目であって、同委員会の説くところをどのように受け止めるかは、各ロータリアンの自由である。決して強要すべきものではないし、強要されたことはかつて一度もない。
- (3)「自主性」の確保のために大切なことは、上に述べた、ロータリー情報活動だけではない。その背景として、次のことが重要な前提条件となる。
 - (i)各ロータリアンが何んでも発言できる自由なクラブの雰囲気。
 - (ii)社会的地位、職業、年齢等の相違を超越した絶対的に平等な人間関係(ロータリーの親睦といってもよい)。
- (4)正しいロータリー情報活動の展開のために、クラブ細則が定めているロータリー情報委員会の三年制委員の早期導入が切に望まれる。これと併行してプライベートな集まりとしての「ロータリー研究会」といったものの発足が期待される。前提条件: (i)若手・中堅を中心に運営。
(ii)絶対派閥的な動きをしないこと。

発表

吉田 用親

本日の田辺さんの卓話を受けて強く印象に残った点が二点ありました。

一つは、R.I.の元になった全米ロータリークラブ連合会が、ロータリーの拡大を意図した組織であり、定款の作成・承認に当たっては、シカゴR.I.との厳しい議論があった点。もう一つは、ロータリーの四大奉仕の内、クラブ奉仕についてはR.I.の管理がクラブの自主性を損なうものではないが、(手続要覧を見ると)最近のR.I.や地区の動きは指導・奨励が多過ぎ、クラブの自主性を奪っているという点でした。92年版と'95年版の手続要覧を比較検討してみますと、第一部「管理」の第一章「ロータリークラブ」は殆ど追加がありませんが、第二部「プログラム」の「社会奉仕」や「国際奉仕」の章は追加だけでなく、少々ウンザリというのが実感でした。

昨年のIMで或るパネリストが、R.I.のテーマは食事のメ

ニューのようなものでクラブは其中で実情に合ったものを選べば良いと言われた事が印象に残っていますが、今日の田辺さんの卓話では、もう一步進んでR.I.のプログラムを超える独創的なテーマを作るべきだと言われました。そのためには相当の活力がクラブに要求されると思います。どうしたら当クラブに大きな活力が生まれるかが、これからの課題と感じました。

発表

馬場 一廣

1. 今日の卓話で、次のことが明確になった。
 - 1) 歴史的に「はじめに、ロータリークラブありきであること」。ロータリーの歴史は1905年のシカゴRCにはじまり、全米各地に子クラブが創立され、1911年紛糾の末全米ロータリークラブ連合会がつくられ、1912年ロータリークラブ国際連合会となり、1922年R.I.と改称され、今日に至っていること。
 - 2) 現在のR.I.の定款第3条にはR.I.の目的について次のとおり定めていること
 - (1)全世界にわたって、ロータリーを奨励し、助長し、拡大し、そして管理すること
 - (2)R.I.の活動を調整し、全般的にこれを指導すること
2. 上記1)についていえば、この歴史的過程はRCの自主性が基本的前提となっていて、R.I.の歴史はRCの自主性を保証するとの誓約のもとにおこなわれてきたものであること。上記2)についていえば、以前の定款に比較すれば管理という表現が登場しており、これがR.I.の最近の管理的傾向を醸成しているのかも知れないが、この定款の解釈としてはRCの自主性を損なうようなことが許されるものとは考えられないこと
3. クラブの自主性は、歴史的にも定款のうえからも、絶対的命題と言うべきである。ところが「お任せ好き」「横並び意識」の強い日本のRCにおいてクラブの自主性を確立し育成していくことはそう容易な事柄とは思えない。時間をかけてみんなでやっていくしかないと思うが、次のようなことがキー・ワードとなるのではなかろうか。
 - ①会員レベルの問題
 - イ) 会員個々人の自覚
 - ロ) 会員個々人のロータリー精神の修得
 - ハ) 会員個々人の向上の努力
 - ②クラブレベルの問題
 - イ) 自由である
 - ロ) 活力がある
 - ハ) アイデア、提案等のしやすい雰囲気
 - ③ロータリー精神の豊かなクラブ・コンセンサスの形成
 - ④クラブの自主性とは行き着くところ会員一人一人の問題に帰着すると思う。

まとめ

山川 政樹

例会での田辺ロータリー情報委員長の卓話を基調として、上記テーマにてクラブフォーラムが開催された。25名の会員が出席し、田辺さんの卓話についての感想や我がクラブの運営についての日頃の考えを6名の方から述べて頂き、このあと上記4名の方からクラブの自主性についてのご意見を発表して頂いた。6名の方の話は次の通り。

クラブの出席率の分母は会員全数となっているが、休会者の数を引いたものが分母になればよいのだが。また、女性会員の入会についても各クラブが自主性を以て討議すれば、女性入会を認めるクラブも増えるのでは(新保さん)。

他のクラブはどうなのだろうか横並び意識がクラブの自主性を失う主な原因ではなかろうか(村山さん)。

自主性と身勝手は混同されるおそれがあるが、自主性を発揮するには四つのテストも重要な事項と考える(川鍋さん)。

地区委員をして感じることは、ガバナーの権限が大きすぎるようである。管理するのが好きなか管理されるのが好きなのか、いずれにせよ自主性の確立にとって重要なファクターである(四分一さん)。

例えば、バキオ基金への寄付など、前年度はどうだったという前例を気にすれば横並びとなり、クラブの自主性を失うおそれが出る。その年、その年で古いテーマでも議論すべきである(青野さん)。

これを受けて、本年度のバキオ基金の寄付については理事会で論議した結果であり自主性は確保したとの報告がある。また女性会員の問題については各クラブはもっと自主的に決めて良いのでは(関さん)。

以上の様なクラブの自主性についての活発な発言があり、大変有意義な内に定刻15分オーバーで終了した。

クラブの自主性は何もそのような問題ばかりではなく、又、新しい奉仕プロジェクトのみでもない。クラブの成長、クラブの向上のために何を為すべきかと、みんなで自主的に考えたい。

クラブの中で、小さな勉強会をつくるのもよい。或いは又ロータリークラブの趨勢に最も大きな影響をもつロータリー

の立法機関である規定審議会への提案を、常に念頭に入れて研究を続けることも、極めて重要なクラブの責務であると思う。

考えてみれば、やりたい事、やるべき事はいくらかでもあるのではない。クラブ内で先ず隗より始めることが自主性であり、主体性であろう。

◎先週報告

3月20日第552回例会

回 R.I. 第2750地区 地区大会 [3月19日(木)、20日(金)] に振替

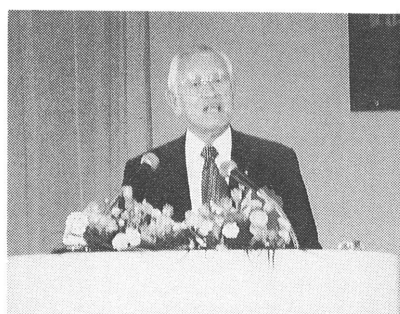
会場／新高輪プリンスホテル国際館パミール

ホストクラブ／東京京浜RC

出席報告●会員71名／出席57名・欠席14名



地区ガバナー 岩井 敏氏



R.I. 会長代理 今井鎮雄氏



記念講演講師 山本卓眞氏

第1日目

地区大会の初日、点鐘(13:00)15分前にはパミールの大会場は席のない会員が多数で程の盛況ぶりであった(翌日の登録委員会報告では登録会員数は4081名)。

13:00定刻にドーンという音楽と前方スクリーンの映像と同時に会場が暗くなり、スポットライトと歓迎の大拍手のなか丸山パストガバナーに先導されてR.I. 会長代理の今井鎮雄ご夫妻が入場された。会場の照明が戻り、岩井ガバナーの点鐘によっていよいよ2日間の大会の幕明けである。

女性を含む3人の絶妙な司会進行のもと、国歌斉唱、ロータリーソング「それでこそロータリー」、100名近い来賓の紹介、80余りの参加クラブ紹介、ロータリー財団奨学生他多数の新世代紹介、パシフィックベイスン分区分より地区に送られた4つの感謝状(昨年12月にグアム、サイパンを襲った風速100mを超える台風災害に向けた4万ドルの義損金に対するもの)の紹介を兼ねた岩井ガバナーの挨拶、ポール・ハリスの人物紹介を含む今井R.I. 会長代理の挨拶とプログラムは進められた。

15:00より次期地区大会開催地(グアム)の皆さんによる素敵な踊りと歌が約20分間催され会場は一時南国ムードで溢れた。その後山本 卓眞氏の「21世紀の繁栄と進路」、服部 禮次郎氏の「ロータリーの昔、今、これから」、明石 康氏の「観念的平和から積極的共生へ21世紀の展望」と記念講演が続ぎ、疲れきみながら有意義のうちに終了の点鐘となった。

午後7時から会場をプリンスルームにかえて今井R.I. 会長代理ご夫妻をお迎えしての晩餐会が開かれた。出席者は400人の着席形式。当クラブより石坂地区国際友愛委員、武下会長および渡部幹事が出席した。東京芸術大学の若手4人による華やかなウイナワルツの演奏の

後、岩井ガバナー、今井R.I. 会長代理のご挨拶、村野ガバナーノミニーのユーモア溢れる乾杯の音頭で楽しいディナーの一時が始まった。朝倉地区幹事の挨拶で2時間に亘る晩餐会も終わり、次の日、大会2日目での再会を約して散会となった。(渡部、川鍋 記)

第2日目

会場を半分に仕切り、9:00の点鐘とともに大会2日目が始まった。昨日同様プログラムはロータリーソング「友」、来賓紹介、規定審議会他4委員会報告(その内決議委員会報告により8項目の大会決議が成立した)、村野ガバナーノミニーの挨拶、表彰及び記念品贈呈と進められた。特に今大会では当クラブは「車いすサポート・ボランティア活動と地域の福祉施設・団体への支援活動」という内容でガバナー賞を受賞した。

真田、片山、三橋、近藤各氏によるグループディスカッションでは「地区のリーダーシッププランとクラブの活動」、「会員数とクラブの財政」、「交換留学生の問題・制度・しくみからの検討」等現状各クラブが多かれ少なかれ抱える諸問題について語られた。

その後韓国第3650地区ガバナー林 隆義氏による氏の生立ち、ロータリーとの出会いとその後の人生感等「奉仕で愛の恩返しをしよう」というテーマにて大変感動的な記念講演と続き、次期大会ホストクラブであるグアムロータリークラブ会長Kelth Beem氏の挨拶を最後にして12:45定刻に大会は無事終了した。

最終プログラムの昼食懇親会でも参加者は皆で大会の成功を祝い合い、ロータリーソング「手に手つないで」を熱唱した。次期大会の参加を心に誓いつつ、2日間にわたる全てのプログラムは終了し、三々五々会場を後にした。(川鍋 記)



参加クラブ紹介



当クラブ参加者



グアムの歌と踊り

東京新南ロータリークラブ

会長：武下 朗 副会長：山下忠治 幹事：渡部一元

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

新保 國彦、荒木 昭文、廣瀬 哲久、
青野 信次、宮川 弘信、開発 英基、
田中 武、小杉 眞史、川鍋 二郎、
立林 英昭、吉田 用親、村山 公士

(編集担当順)